

放送視聴票 第 1 回 (bijyutu202501 + bijyutu202502)

■ bijyutu202501 : アートって何？

【これから美術を学ぶにあたっての心構え】

本物そっくりの絵や、抽象的で意味のわかりにくい作品など、アートにはさまざまな形があります。わからない作品に出会っても「わからないから逃げる」のではなく、「なぜそう感じたのか？」と自分に問いながら向き合うことが大切です。

1年間の学びを通して、自分なりの「アートとは何か」という答えを探していきましょう。

【美術を学ぶことの意義】

アートは五感を使って感じ、想像し、考える体験です。非日常的な体験にとどまらず、日常生活でも役に立つ力が身につきます。

美しい形や色に気づく感覚、物事を多面的に見る想像力、他者との違いを認める多様性の理解など、美術を通してさまざまな力を養うことができます。

【どのように美術を学んでいけばいいのか】

アートには正解がひとつではありません。大切なのは、自分自身で考え、表現し、他者と意見を交わしながら自分の視点を深めていくことです。

作品を通して対話し、自分の考えを深めていく学びを目指しましょう。

■ bijyutu202502 : 鑑賞

【美術の約束事】

美術作品は、それを誰かが「見る」ことで初めて美術になるという考え方があります。

ピカソの言葉「作品は見る人によって生命を与えられる」にもあるように、アートは鑑賞者の存在によって完成するのです。

作品（アートワーク）と美術（アート）は違うものだと思えることが大切です。

【鑑賞を楽しむ手がかり】

鑑賞には観察・想像・解釈の3ステップがあります。

まず目を凝らして観察し、次に疑問を持って想像をふくらませ、最後にその意味や背景を理解して自分なりの解釈を作ります。

表情や構図から人物の気持ちを想像したり、自分が作品の中にいるように考えると、より深く楽しめます。

【約束事に沿って鑑賞する】

番組では、ニューヨークの美術館で行われている「探究的な鑑賞」の方法が紹介されました。

テーマに沿って複数の作品を比べながら鑑賞することで、美術を通して現代社会の問題や価値観について考えることができます。

鑑賞は、自分自身の視点を育てる営みでもあります。